

愛知県高等学校バレーボール選手権大会



愛知工業大学名電高等学校

男子優勝は愛工大 名電高校！

インタビュー

大会を振り返った感想

春高に向けての通過点と考えている大会で、選手に負荷をかけながらも優勝できたのは彼らの努力の成果だと感じています。

チームのアピールポイント

勉強もバレーも全国上位レベルを目指して、机の上もコートの中も全力を尽くすことです。

上位大会がない本大会の位置付け

チームの現状の再確認やリザーブ選手のアピールの場として位置付けています。

北川祐介監督

主将として気をつけていること

いつも他の選手に笑顔でポジティブな声掛けをして、ベストパフォーマンスを出してもらおうと気を付けています。

大会中で一番印象に残っていること

上級生だけではなく下級生もタイム中に意見を出し合い、チームが成長しよう一つになれていたことが印象に残っています。

石川智春主将



栄徳高等学校

昨年に続き栄徳高校が第3位

大会を振り返った感想

今大会はほとんどの選手が初出場のなか、これまでの成長とこれからの課題が見えたとても充実した大会になりました。

チームのアピールポイント

全てのプレーにおいてバランスの取れた、究極の普通を追求したチームです。

上位大会がない本大会の位置付け

1、2年生の成長の場と捉え、新人戦までの明確な課題を見つけつつ、3年生含めたチーム全体のレベルアップを図るための大会でした。

坂本龍星監督

主将として気をつけていること

常にチームメイトとコミュニケーションをとるようにしています。特に試合中は会場の雰囲気や声援に吞まれて、話し合えないと、どんどん流れが悪くなっていくので、負けている時こそ周りやと話し合うことを意識しています。

大会中で一番印象に残っていること

1セット目から流れが悪く押されており自分たちのやりたいプレーができないなか、タイムアウト中に話し合って改善し、巻き返して勝てたことが強く印象に残っています。

高田昊主将



名古屋たちばな高等学校

昨年ベスト8のたちばな高校は第3位

大会を振り返った感想

今大会で本格的にデビューする選手もあり、1回戦から緊張感のある試合が続きましたが、試合をやるごとに選手達が成長していき、試合ごとにヒーローが現れる嬉しい展開もありました。しかし、多くの課題も見つかったので、今後の練習で克服していきたいと思います。

チームのアピールポイント

チームスローガンは「ONE」です。70人を超える部員、スタッフ、保護者、応援をしてくれる人達が「ONE」となって優勝を目指す。そんな一体感がチームの特徴です。

上位大会がない本大会の位置付け

上位大会は無い分思い切ってチャレンジ出来る大会であると感じています。今大会では様々な選手がデビューしてこんなことが出来るようになったのかと嬉しい驚きが多くありました。

市川陽平監督

主将として気をつけていること

「気配り」です。70人を超える部員がいるので、部員一人一人のモチベーションなど、様々なことに気づいて声を掛けてチームが「ONE」となって目標に向かっていけるよう、日々コミュニケーションをとっています。

大会中で一番印象に残っていること

下級生も多く出場した大会だったので、チーム全体が緊張してしまい普段のプレーが出来ない時もありましたが、試合をするたびにチームが成長して、色々な選手が活躍してくれたのが印象に残っています。

杉本翔亮主将